

第 71 回 入学式 式辞

第 71 期生の皆様、桜の聖母短期大学へのご入学おめでとうございます。

聖母マリア、そして本学の創設者聖マルグリット・ブールジョワと共に、教職員一同、皆様のご入学を心から歓迎しています。これまで皆様を支え、成長を温かく見守ってこられたご家族や関係者の皆様のお慶びもひとしおのことと存じます。謹んでお祝い申し上げます。また、ご来賓の皆様におかれましては、ご多用の中、ご臨席を賜り、式に華を添えていただきますことに厚くお礼申し上げます。

式のはじめに朗読された 聖書の場面を描いたステンドグラスが正面玄関ホールにあります。世界に一つしかない美しいステンドグラスです。そこに描かれているのは、イエス・キリストを身ごもっている聖母マリアが、山路を越えて、遠い親戚のエリサベトをご訪問した場面です。聖母マリアは、まだ若くおそらく 10 代でした。若くして妊娠し自分自身も大変であったにもかかわらず、親戚のエリサベトが高齢で妊娠したと聞き、心配して遠く離れた山里までお見舞いに行きました。この「ご訪問の聖母マリア」の精神のもと、桜の聖母短期大学の設置母体である修道会が設立されました。

本学の設立母体である修道会、カナダにあるコングレガシオン・ド・ノートルダムを設立した聖マルグリット・ブールジョワは、1620 年にフランス・シャンパーニュ地方のトロワに生まれました。1653 年、カナダに渡り、5 年後、モンリオールで最初の学校を開きました。その後、教育活動を通して神と隣人への奉仕を目的とするコングレガシオン・ド・ノートルダムを設立しました。フランス語のコングレガシオン・ド・ノートルダムを日本語に訳すと「聖母マリアの修道会」です。この修道会は、未開の地であったカナダの発展に大きく貢献しました。聖マルグリット・ブールジョワは、カナダでは誰もが知っているシスターであり、聖人であり、建国の母として敬愛されています。そして、何よりも、優れた教師でした。

カナダの建国に大きな貢献をした聖マルグリット・ブールジョワの修道会は、およそ 90 年前の 1932 年に 5 人のシスターを日本に、福島に派遣して下さいました。5 人のシスターは来日後、修道院に成人教育の場を設け、英語やフランス語、ピアノ、声楽、宗教などを教えました。その後 1938 年に幼稚園を開設しました。太平洋戦争中は、幼稚園の閉鎖を余儀なくされましたが、戦後、活動を再開したシスターたちは小学校を開設し、その小学校の卒業生のために中学校を、その卒業生のために高等学校を開設しました。そして、1955 年に「桜の聖母短期大学」が誕生しました。2025 年、桜の聖母短期大学は創立 70 周年となります。

フランスからカナダに渡った聖マルグリット・ブールジョワが、カナダで「ご訪問の聖母マリア」の精神のもと愛と奉仕に生きたように、カナダの修道会から福島に派遣されたシスター達も「ご訪問の聖母マリア」の精神のもと愛と奉仕に生きて下さいました。その精神は本学の「建学の精神」にも宿っています。本学の建学の精神は、「カトリックの精神に根ざ

した人間観・世界観に基づく知的・倫理的見識を養い、豊かな心と深い教養をもって、愛と奉仕に生きる良き社会人を育成すること」です。

皆様は本日から桜の聖母短期大学の学生です。キャリア教養学科、生活科学科食物栄養専攻、生活科学科福祉こども専攻こども保育コース、それぞれにおいて、社会に貢献するために必要な教養や専門的な学びを深めていくこととなります。それぞれの学科・専攻・コースにおいて目指すべき人材像や教育目標を掲げていますが、それらは建学の精神を踏まえたものです。学びを通して建学の精神について理解を深める機会があります。本学は、建学以来、変わらぬ建学の精神に基づいた教育を通して「愛と奉仕に生きる」確かな人材を育成し社会に送り出してきました。2年間の学びを通して「愛と奉仕に生きる」とはどういうことなのか。理解を深めてください。

2年間の学生生活において、学業に専念することは当然のことですが、学業以外のことに期待し希望を抱いている方も多いのではないのでしょうか。どのようなことに打ち込みたいと思っていますか。皆様が過ごす学生としての2年間は平等に与えられます。どのような過ごし方をしても流れる時間は同じです。学生として過ごす時間は長い人生を考えると僅かな時間かもしれません。しかし、この僅かな時間をどのように過ごすのか、過ごし方によっては、皆様にとってかけがえのない、貴重な2年間になるはずです。ぜひ時間を有効に活用し充実した2年間で過ごしていただきたいと思います。

様々な過ごし方があると思いますが、私からひとつお願いしたいのは「一期一会」を大切にしてほしいということです。皆様よくご存じの言葉であると思います。皆様はこれから新しい仲間や教職員と出会い、そして共に過ごしていきます。新しい出会いを大切にすることはもちろんですが、仲間や教員・職員と共に過ごす日々を、一つひとつの出来事を、その一瞬を大切に過ごしていただきたいと思います。仲間や教員・職員と過ごす日々や様々な出来事、思い出の一つひとつの積み重ねが皆様の2年間を作り上げます。その一つひとつを、その一瞬を大切に過ごすことで充実した貴重な2年間になるものと考えます。大切に過ごしてください。

皆様のご健康と、皆様の学生生活が実りの多い豊かなものになることを祈念して、入学式の式辞といたします。

2025年4月5日
桜の聖母短期大学
学長 坂本真一